

教育研究業績書

2019年 4月1日

氏名 藤本 明美

(印)

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
<p>1 教育方法の実践例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対する子育て支援の理解をふかめるための演習を、保護者と学生の双方向授業にて実践（実習）する。 ・科目：家庭支援論・家庭文化特論 <ul style="list-style-type: none"> ・地域団体・市民過活動と連携しながら子育て支援を核としたソーシャルアクションを実習する。 ・科目：地域福祉 	<p>2016年10月～12月</p> <p>2017年7月</p>	<p>保護者をゲストスピーカーに招き、子育ての不安や悩みを語って頂く。共感しながら傾聴し、様々な悩みに対して各自がテーマを選び、掘り下げて学習してレポートを作成。次のステップで保護者向けのリーフレットを作成させる。読みやすくわかりやすく、保護者の不安軽減につながる内容を心がけることで共感力を身につける。最後のステップで、親子を招いてリーフレットを使った子育て講座を開催し、対話する力、子育て支援の力を横断的につける。</p> <p>日本の二八祭りとある祇園まつりの文化を次世代にも伝承できるように、子連れが足を運びやすい環境づくりを地域団体・市民活動と協働して進める。学生が主体となって宵々山、宵山の鉾町で親子休憩ステーション運営を行う。2日間で235名の親子の利用があった。</p> <p>事後学習として、当日の様子を壁新聞にまとめてソーシャルアクションを発信する。祇園祭りという大きな舞台において、社会的にも初めての取り組みであり、利用者や鉾町の反響も大きかった。「行動を起こすことで文化や地域に小さな変化を起こした体験は達成感が大きく、今後の子育て支援や福祉活動につなげたい」と学生の自信につながった。</p>
<p>2 作成した教科書、教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『言葉（理論編）』共著・三晃書房 ・科目：保育内容言葉 <ul style="list-style-type: none"> ・「仲間づくりのためのファシリテーション実践ハンドブック - つながり・育み合うプログラムとして -」 ・科目：保育実践演習 	<p>1990年</p> <p>2010年</p>	<p>pp. 100-109保育者養成向けのテキストとして編まれており、保育内容の言葉について理論的側面から解説を行っている。担当部分：「第7章1）家庭と言葉」を執筆した。</p> <p>全118頁。 独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・害者基金」助成事業の一環として、藤本が中心となって京都子育てネットワークがブックレットを作成した。子育て家庭の孤立予防、地域の子育て支援、保護者会の進め方などを学ぶ時に有効である。 児童館などを利用している保護者3,000人からのアンケートを元に参加意識を分析。さらにファシリテーターと参加者の質的变化の調査をとりまとめ、仲間づくりのファシリテーションをプログラム化した。全頁を執筆・編集したが、京都子育てネットワークとして編纂したため抽出不可。 118pp</p>

<ul style="list-style-type: none">・「十人十色の子育てひろげよう つながろう！」・科目：地域母子保健 家庭支援論	2012年	全40頁 独立行政法人福祉医療機構「社会福祉振興助成事業」の一環として、藤本が中心となってNPO法人京都子育てネットワークが作成した。子育てに関わるセルフヘルプグループの情報、育てにくさを抱える子育て家庭の生の声などをまとめた冊子を教材として利用。当事者の気持ちに寄り添う学習、支援者としてアドボケイトするため学習、ノーマライゼーションを目指す実践を学ぶ。ロールプレイを通して当事者性を体験するのに非常に役立つ教材である。
<ul style="list-style-type: none">・『現代地域福祉論－地域と生活支援－』・保育出版社・共著・科目：地域福祉	2013年	pp. 134-137 現代の地域社会が抱える諸課題について、福祉的側面から解説したテキストである。分担執筆：「第8章 1節 子育て支援と地域における支援活動（第1章 子ども家庭福祉領域を中心とした地域福祉の実際）」について執筆した。
<p>ファシリテーション実践ハンドブック「つながりづくりのためのアイデア集」</p> <ul style="list-style-type: none">・科目：子育て支援	2019年	全41頁 「平成30年京都府こどもつながり応援隊事業補助金活用事業」の一環として、NPO法人京都子育てネットワークで藤本が中心となって作成した。利用者主体の子育て広場やサークルが、安心して子育てができる地域づくりが可能となるソーシャル・キャピタルを豊かにする根拠をまとめた。そして、そのプログラムのあり方、アイデアを具体的に示し、実践できるように執筆した。
<p>3 当該教員の教育上の能力に関する大学の評価</p> <ul style="list-style-type: none">・子育て支援における研修会講師による社会的評価	1997年～ 現在に至る	子育て支援における研修会講師として年間多数依頼を受ける。先進的な実践を可視化し、具体的な成果と理論を伝え、さらに現場の意識を高める参加型プログラムを取り入れている。6年間毎年研修を受け持っている地域もある。 社会的評価は高いと言える。
<ul style="list-style-type: none">・学生による授業評価		自分で調べたり考えたり、グループで話し合ったり意見交換をするなどアクティブラーニングを取り入れている。その学習方法が、意欲や思考がより深まり、実践につながるという評価を得る。
<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none">・大学の公開講座	2011年1月	龍谷大学短期大学部「いま地域の中で暮らしを考える」

<p>・社会教育講座、シンポジウムにおける講師及び専門機関に対する研修講師</p> <p>・調査研究</p>	<p>1997年～現在に至る</p> <p>2018年3月</p>	<p>子育て支援に関するシンポジウムや講演、研修会など全国大会レベルから地域開催レベルまで、行政や自治体、民間団体から多数依頼を受けている。近年では内閣府や社会福祉協議会や子育て支援センターなどからの依頼があり、地域の子育て家庭における現状と、地域・家庭が持つ力を引き出し、つなげるための理論と実践を伝える。</p> <p>厚生労働省の定める子育て支援員養成の専門研修「地域子育て支援コース」（京『循環型子育て相互支援を可視化する～子育てサークルの地域に及ぼす影響の調査～』子育てをきっかけに問題意識に目覚めた母親達が地域で仲間作りをはじめ、そこでつながったネットワークが10年、20年の間に地域の中で広がり、どのような影響を及ぼしているのかを質的調査で検証し、さらにそれを土台に量的調査を行った。子育てサークルでの体験やつながりが、安心して子育てができる地域づくりが可能となるソーシャル・キャピタルを豊かにするが調査によって明らかとなった。 12pp</p>
職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
<p>1 資格</p>	<p>1984年3月</p> <p>2004年12月</p>	<p>・小学校教諭一種免許状 京都府教育委員会：昭五八小一普め第二四五号</p> <p>・幼稚園教諭一種免許状 京都府教育委員会：昭五八幼一普め第一二四号</p> <p>・カナダ保健省公認 Nobody's Perfect Japan Nobody's Perfect プログラムファシリテーター</p>
<p>2 特許等 特記事項なし</p>		
<p>3 その他</p> <p>・パネルシアター創作&公演活動</p> <p>・親支援プログラム「Nobody's Perfect プログラム」（完璧な親なんていない）</p>	<p>1998年～2000年</p> <p>2005年～現在に至る</p>	<p>ピアニストによる演奏とパネルシアターのコラボレーションで、「ピーターと狼」や「みにくいあひろの子」など名作を演じる。</p> <p>（概要）0～6歳の子育て家庭の保護者を対象に、子育ての悩みや不安を解消するためのグループワーク。8週連続で週1回のプログラム構成。26カ所にてファシリテーターとして従事。</p> <p>主催は、京都市子育て総合支援センターこどもみらい館・京都聖母女学院短期大学・京都生活クラブエルコブ、など。</p> <p>（成果）子どもへの愛着が高まったり、夫婦関係が円滑になったり、価値観が広がるなど、個人によって差はあるが、おおむね、アフターグループとして活動が始まり、地域への波及効果も見られた。</p>

<p>・子育てサークルの運営からつどいの広場の運営。当事者から支援者への循環を作る。</p> <p>・多様なニーズを持つ子育て家庭の拠点づくり、及び運営。ノーマライゼーションを広めるコミュニティづくり。</p>	<p>2006年9月～ 2011年8月</p> <p>2011年8月～ 2013年3月</p>	<p>(概要) ニュータウンの中で安心して子育てができる環境をつくるために、住宅管理協会より委託を受け、週1回親子の居場所づくりとして子育てサークルを開催。親子が主体的に運営できるシステムを作り上げ、参加型のプログラムを定着させていく。</p> <p>(成果) 保護者の主体性が育つことでピアサポーターとして継続的に利用する方が増えていく。その成果として、自治体からの委託でつどいの広場を受けることとなる。参加者だった保護者が、年月をかけて支援者となるようサポートした。安心できる居場所づくりを通して地域で人が循環するようになった。</p> <p>(概要) 「子育てコミュニティベースそらまめ@RAKUWA」としてNPOと医療機関のネットワークで開設をした。</p> <p>アレルギーや障がいをもっていたり、NICUに入っていた子ども、多胎児など、地域の居場所に行きづらい親子の居場所づくりから始め、地域の親子とも交流を促進する。</p> <p>(成果) 施設が閉所した後にも、利用者が中心となって地域の児童館で自主的に交流する姿へと広がっていき、多くの子育て家庭の支えとなった。ノーマライゼーションの啓発が利用者の行動を成長させ、コミュニティづくりにつながった。</p> <p>前述した『現代地域福祉論－地域と生活支援－』2013／保育出版社にて事例を紹介した。</p>
<p>・商店街空き店舗にて、地域の交流サロンを設立。子育て支援の広場を運営。</p>	<p>2012年11月～ 2016年10月</p>	<p>(概要) 福祉の3本柱である、子育て支援・障がい者支援・高齢者支援を行える施設を大学・地域・行政・商店街と連携して設立。子育て家庭を中心に孤立予防の場づくりを広める。</p> <p>(成果) 学生が福祉を学ぶ場としても活用している。</p> <p>多胎児支援や障害者支援、母親の地域参加など、利用者がコミュニティづくりへと進展する姿もあり、子育て家庭の孤立予防が地域住民の力で行われている。</p>

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
著書				
1. 『言葉（理論編）』	共著	1990年	三晃書房	pp. 106-109保育者養成向けのテキストとして編まれており、保育内容の言葉について理論的側面から解説を行っている。担当部分：「第7章1）家庭と言葉」を執筆した。
2. 『子育てサークル共同のチカラ～当事者性と地域福祉の視点から～』	編著	2003年	文理閣	pp. 12-59、pp. 62-157 京都の子育てネットワークの実践にもとづき、子育て支援を受ける立場の当事者である親たち自身がなぜ立ち上がり、どのような思いで子育てサークル活動しているのかをまとめた文献である。 担当部分：「第1章 子育てサークルのチカラ」「第2章 子育てサークルへの招待」について執筆した。
3. 『仲間づくりのためのファシリテーション実践ハンドブック - つながり・育み合うプログラムとして - 』（再掲）	編著	2010年	京都子育てネットワーク（独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業）	独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業の一環でブックレットを作成。児童館などを利用している保護者3,000人からのアンケートを元に参加意識を分析。さらにファシリテーターと参加者の質的变化の調査をとりまとめ、仲間づくりのファシリテーションをプログラム化した。全頁を執筆・編集したが、京都子育てネットワークとして編纂したため抽出不可。 118pp
4. 『現代地域福祉論 - 地域と生活支援 - 』（再掲）	共著	2013年	保育出版社	pp. 134-137 現代の地域社会が抱える諸課題について、福祉的側面から解説したテキストで分担執筆：「第8章1節 子育て支援と地域における支援活動（第1章 子ども家庭福祉領域実践を中心とした地域福祉の実践）」について執筆した。子育て施策の動き、及びノーマライゼーションを目指した子育て支援のための広場を地域資源として定着させていく実践をもとにプロセスを紹介。
5. 『少子社会の子ども家庭福祉（'15）』	ゲスト	2015年	放送大学/DVD	今日の子育て家庭の状況を、つどいの広場の実践事例を通して紹介。 「第1回 現代社会の特徴と子ども家庭福祉問題」
6. ファシリテーション実践ハンドブック「つながりづくりのためのアイデア集」	編著	2019年	NPO法人京都子育てネットワーク「平成30年京都府子どもつながり応援隊事業補助金活用事業」	全41頁 NPO法人京都子育てネットワーク事業の中で藤本が執筆し作成した。利用者主体の子育て広場やサークルが、安心して子育てができる地域づくりが可能となるソーシャル・キャピタルを豊かにする根拠をまとめた。そして、そのプログラムのあり方、アイデアを具体的に示し、実践できるように執筆した。
(学術論文)				
1. 「保育総合演習における子育て支援ファシリテーター養成を考えるー子育てコミュニティベースの取り組みをもとにー」	単著	2009年	『大学教育研究第18号』神戸大学 大学教育推進機構	京都女子大学で担当している「保育総合演習」において実践した、地域をベースとした取り組みである子育て支援ファシリテーター養成の試みについて考察したものである。 pp. 1-27

2. 「子育てサークルは地域を活性化するか～面接調査をもとに～」	単著	2017年	京都聖母女学院短期大学研究紀要第47集	子育てをきっかけに問題意識に目覚めた母親達が地域で仲間作りをはじめ、そこでつながったネットワークが10年、20年の間に地域の中で広がり、どのような影響を及ぼしているのかを検証するためのインタビュー調査をまとめた。 pp. 72-84
その他 (学会における研究発表)				
1 『事例から見る仲間づくりとグループ発達を促すファシリテーターの関わり方』	単独	2008年 5月18日	日本保育学会第61回大会保育方法(於 名古屋市立大学)	子育て支援の実践事例を通して、親の横のつながりをうみ出す仲間づくりと、グループとしての成長・発達を促す試みとしての、ファシリテーションの意義について研究発表した。
2. 『「私」の子育てから「地域の子育て力」への質的変容』	単独	2010年 7月4日	日本子ども社会学会第17回大会(於 京都女子大学)	一人の母親のママ友がほしいというレベルから、市民力を身につけた公共性のある子育て支援者へと変容していくその変遷と変化の質について考察を試み、発表を行った。
3. 『子育てグループを拠点とした循環型の子育て相互支援の仕組みづくり』	単独	2011年 5月29日	日本家政学会シンポジウム第63回大会(於 和洋女子大学)	地域における子育て支援システムを単発のもので終わらせず継続性を持たせるため、子育てグループを核とした取り組みについて報告した。
4. 『保護者・地域の視点から～親・仲間・地域に抱かれながら響きあい、育み合ういのちの循環～』	単独	2013年 12月7日	真宗保育学会第20回大会(於 龍谷大学)	子育て支援を共助で支えあい、親子の育つ土壌である地域を育み合う循環を「参画」「役割」「尊重し合う」意識、「相互支援」の視点、「つなげる力」の事例を通じた発表を行った。
(主な講演・研修会)				
心の子育てインターネット関		1999年2月		
子育てネットワーク全国研究 交流会「街づくりと子育て ネットワーク」		2000年1月		
京都府社会福祉協議会「子育て 支援ボランティア講座」		2000年12月		
子育てネットワーク全国研究 交流会「子育てネットワーク を続けていくために」		2001年7月		
全国子育てサークル交流会支 援事業「子育て中の親の悩み を聞こう語ろう」		2002年8月		
子育てネットワーク全国研究 交流集会「いま改めて子育て ネットワークとは何かを考える」		2003年10月		
厚生労働省「子育て支援者・ 指導者研修会」		2003年12月		
京都市保育課 地域子育て支 援事業担当者研修会「子育て 支援の在り方」		2003年12月		

京都府私立幼稚園連盟幼児教育相談研修講座「子育て支援ありのままを受け止めて」	2004年1月
京都市児童家庭課子育て支援シンポジウム「新・京・子どもいきいきプラン策定に向けて」	2004年11月
内閣府「子どもと家庭とみんなで支えるはぐくみの京都」	2005年3月
こどもみらい財団次世代育成支援推進全国フォーラム「仕事と子育ての両立支援に向けて」	2005年7月
厚生労働省 子育てフォーラム「サークルでの親子の遊びのポイント」	2005年11月
いばらき子育てねっとわーく「つながろう！育ちあいの子育て」	2005年12月
全国幼稚園教育研究協議会 幼稚園経営研修会「地域とともに作る園経営」	2006年1月
京都市総合企画局 京都市の政策課題研究会「これからの子育て支援～虐待対策、孤立の問題」	2007年1月
浄土真宗本願寺派長野教区保育連盟研修会講師「保護者との良い関係を築く子育て支援」	2009年6月
中国・四国地区仏教婦人会大会「子育てワークショップ」	2010年
全国子育てひろば実践交流セミナーinおおさか 事例発表「地域でつくるひろばの力」	2010年2月
京都府認可外保育施設保育従事者研修会講師「保育所保育指針の改定～保護者への対応と子育て支援～」	2011年5月
独立行政法人福祉医療機構 優れた醸成事業事例紹介「つながりづくり 支援者向きハンドブック作成事業」	2011年12月
箕面市子育て支援センタースタッフ研修会講師	～現在に至る

福島子どもネットワーク「地域子育てのネットワークづくり」

2014年1月

京都府子育て支援員養成研修
内閣府地方分権改革シンポジウム～地域創生において地方分権の果たす役割と今後の展開～

2014年1月～
現在に至る

2015年1月

泉佐野市社会福祉協議会子育てサロン研修会「地域が行う子育てサロンの意義とボランティアの関わり」

2016年5月

亀岡市地域包括ケアセンターネットワーク事業「利用者との信頼関係の築き方と関係機関の連携について」

2018年3月

(主な社会活動委嘱委員)
京都市子育て支援政策に関わる行動計画作成・検討・推進・進捗管理部会・条例検討会など各種委員(現在に至る)
京都府子育て支援政策に関わる行動計画作成・検討・推進・進捗管理部会・対策協議会・条例検討委員会など各種委員(現在に至る)
京都府明日の京都 策定委員(現在に至る)

2004年～現在
に至る

2005年～現在
に至る

2009年4月～
現在に至る

京都府地域創生推進会議委員(現在に至る)

2014年12月

京都府子育て支援医療助成制度あり方検討会会議委員

2018年7月

(主な社会活動)

子育てサークルたんぽぽひろば設立 代表(現在に至る)

1994年5月

京都子育てネットワーク設立代表

1997年3月

地域子育て支援拠点事業(つどいの広場)「いっぽ」「ま～ぶりんぐ」設立・運営

2011年3月

特定非営利活動法人京都子育てネットワーク設立 理事長就任(現在に至る)

2011年9月

--	--	--	--	--	--